

# 2019 年度（令和元年度）事業報告

## 1.法人活動報告

### 1)全体報告

・平成 31 年度として始まった 2019 年度は、5 月 1 日より元号が「令和」と改元され、令和元年度として新たなスタートを切りました。10 月には地域活動支援センターほほえみが玉造に移転、大阪のろうあ高齢者の暮らしを支える拠点として、「大阪ろうあ会館 玉造センター」が開所しました。なかまの里から数えて 5 番目の聴覚障害者施設となる「泉州聴覚障害者センターなんなん」も、大阪ろうあ会館から 1 千万円（2 年間で 2 千万円）寄付したほか、街頭募金や 50 円募金、イベントの実施に取り組み、国庫補助金 1 億 2 3 6 4 万円の助成を受けたことで無事に 2020 年 4 月より開所できました。

また全国的な取り組みとして、旧優生保護法による強制不手術の提訴が各地で行われ、大阪では野村夫婦（仮名）が提訴、4 月 17 日に第 1 回目の公判が行われました。11 月までで計 4 回の公判が行われ、当会副会長の証言も行われましたが、コロナウイルスの影響により結審は次年度に持ち越しとなりました。

2020 年に入ると、新型コロナウイルスの影響により、各地で行事・集会の自粛や中止が相次ぎ、当会も北摂ブロックの箕面市で予定していた第 42 回みみの日記念大会の中止を決めたほか、大阪府委託事業も手話通訳者養成講座、国際手話教室、難聴者のための手話教室、ろう学校教員向け手話講座の 3 月分残り回数を中止、一部代替措置で実施することになりました。

#### ① 国内法関連、大阪府行政との関わり

##### ●手話言語法（仮称）、全国の動き

・2016 年 6 月に設立された「全国手話言語市区長会」は、市町村の手話言語条例設立に向けて前進する一歩として、当会は府内全市町の加入をめざしています。2019 年度末での加盟した市町は計 26 市 1 町になりました（2018 年度より 2 市増）。詳細は一覧表にまとめています。

##### ●2019 年度手話言語条例制定市町（府内）

制定市名	条例名称	採択日	施行日
柏原市	柏原市手話言語条例	2020 年 3 月 24 日	2020 年 3 月 24 日
高槻市	高槻市手話言語条例	2020 年 3 月 24 日	2020 年 4 月 1 日
大阪狭山市	大阪狭山市手話言語条例	2020 年 3 月 26 日	2020 年 4 月 1 日
交野市	「みんなで咲かそう手話の花」交野市手話言語条例	2020 年 3 月 27 日	2020 年 4 月 1 日

##### ●大阪府行政とのかかわり

・大阪府手話言語条例評価部会に当会会長と事務局長が出席、乳幼児期手話獲得支援事業「こめっこ」の施策についての報告を受けました。こめっこは 2020 年度より NPO 法人となり、当会の事

業からは切り離されます。今後は2020年6月に森ノ宮にできる大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター3階 聴覚障がい者支援センターの一機能として、日本財団と大阪府から助成・委託を受けて存続することになります。

- ・府意思疎通支援部会に当会常任理事が出席、来年度以降の手話通訳者養成講座の運営についての確認をしました。
- ・当会会長が委員をつとめる府の委員会としては、上記2つの部会をまとめる「大阪府障害者施策推進協議会」、大阪府障害者差別解消条例による「大阪府障害者差別解消協議会」、「大阪ふれあいキャンペーン実行委員会」があります。
- ・大阪ふれあいキャンペーン実行委員会の企画運営委員会に当会副会長が出席しています。11月22日には初めての企画として広報力・企画力向上研修が行われ、当会から役員・職員計9名が出席しました。

## ② 社会情勢に対する取り組み

- ・全日本ろうあ連盟が2018年度から取り組んでいる、旧優生保護法による聴覚障害者への強制不妊手術の実態調査および支援に引き続き取り組んでいます。5月19日に大阪三団体主催で「旧優生保護法に関する学習会」を開催、藤木和子弁護士を招いて旧優生保護法と優生思想について学びました。7月には大阪旧優生保護法対策チームを発足、定期的に会議を開き、裁判支援と一時金の周知を中心に取り組みました。年度末に各ブロックで優生思想にしばった学習会を企画しましたが、コロナウイルスの影響で全て延期となりました。

## ③ 施設建設運動

- ・建設費総額3億円のうち、募金総額3千万円の目標を達成すべく、各ブロックでのイベントや街頭募金、50円募金に取り組みました。建設委員会主催のイベントとして8月には那須英彰・月曜男（森下興蔵）のトークショーを開催、2020年3月28日にも早瀬憲太郎・畑奈々子さんによるイベントを企画しましたが、コロナウイルスの影響で中止となりました。
- ・50円募金は登録者数500名を目標にしましたが、法人関係者が目標200名に対して計208名で目標達成したのに対し、大聴協関係者は目標300名のうち260名（87%）にとどまりました。
- ・泉州聴覚障害者センターなんなんは12月22日に上棟式を実施し、3月16日には建築会社から法人にカギが引き渡され、無事に4月1日の開所を迎えました。

※各ブロック達成状況（2020年3月31日時点）

	大阪市	北摂	京阪	河内	泉州	合計
募金目標	1,800,000	1,300,000	1,300,000	1,300,000	1,800,000	7,500,000
到達額	1,833,555	1,355,798	1,565,851	1,507,468	2,261,059	8,523,731
到達率	102%	104%	120%	116%	125%	114%

※各ブロック 50 円募金達成状況（2020年3月31日時点）

	大阪市	北摂	京阪	河内	泉州	役員	合計
目標数	60	30	30	30	50	100	300
到達数	27	23	28	27	60	95	260
到達率	38%	90%	79%	88%	120%	95%	87%

④ 会員拡大、次世代育成、主催行事

● 当会会員拡大

- ・正会員、賛助会員を合わせて2019年度総会員数は1,224名（内、正会員1,182名）となり、昨年度（総会員数1,340名、内、正会員数1,294名）より116名減少しました。

賛助会員をのぞいた正会員はとうとう1,200名を割り込む数字となり、2013年度（正会員1,485名）との差は261名にもなります。単純計算で2013年度比15,000円×261名＝約392万円の収入減です。

これにより、当会の昨年度決算は97万円の赤字となりました。近畿ろうあ者体育大会や近畿ろうあ女性フォーラムからの寄付を入れてもこの大きな赤字となり、深刻な財政危機状態となっています。

【当会正会員数推移】

2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
1,485名	1,423名	1,358名	1,342名	1,313名	1,294名	1,182名

- ・社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会・後援会会員数は全体で1,101名（2018年度915名）、131団体となりました。個人会員の内ろうあ者は272名（2018年度266名）でした。募金や学習会などの取り組みは後援会担当部の活動報告の通りです。
- ・社会福祉法人全国手話研修センター後援会は、取り組みの意識が弱く、大阪の会員数は292名（2018年度258名）になりました。目標の大阪1,000名（全国10,000名）からはまだ遠く、引き続き後援会の支援と会員拡大につとめます。
- ・日本聴力障害新聞購読者数は目標1,588名に対し956名（達成率60.2%）にとどまり全国19位、季刊MIMI購読者数は目標794名に対し109名（達成率13.7%）で全国43位と順位を下げています。刊行物の存在意義への理解を求めて、研修センター後援会とセットで普及する必要性があります。

す。

#### ●次世代育成

- ・毎年実施している大阪ろうあ者成人式には27名の新成人が参加されました。大阪府谷町福祉センターで実施する最後の成人式となりました。

#### ●主催行事関連

- ・第46回大阪ろうあ者スポーツ大会は7月7日に舞洲障がい者スポーツセンターにて開かれ、329名の参加者が様々な競技を楽しみました。総合優勝は北摂ブロック、応援合戦は泉州チームが優勝しました。
- ・第47回全大阪ろうあ者文化祭は長居障がい者スポーツセンターで10月27日に行われ、大阪府警音楽隊カラーガード隊によるマーチングや府立柴島高校の生徒100名による創作ダンス、大阪メトロの手話サークル「チームもぐら」による安全教室など、体育館をステージに見立てたパフォーマンスの連続で、約1500名の参加者が集まりました。

#### ⑤ 全国手話検定試験

社会福祉法人全国手話研修センター主催の第14回全国手話検定試験は10月12日(4・5級)、13日(2・3級)および19日(準1・1級)に予定されていましたが、台風19号の影響で5～3級は中止となりました。申込者数は5級185名(2018年度210名)、4級221名(2018年度231名)、3級357名(2018年度336名)、2級174名(2018年度143名)、準1級65名(2018年度60名)、1級62名(2018年度50名)で総勢1,064名(2018年度1,030名)と34名増加しているだけに、台風での中止は残念な結果となりました。

#### ⑥ 大阪ろうあ会館の事業

- ・大阪府登録通訳者試験受験者数は一次392名、二次41名が受験し、結果新規に4名が合格、登録者数は247名となりました。手話通訳技能検定試験(手話通訳士試験)には大阪府全体から18名(府15名、大阪市3名)が合格されました。これまでの累計は347名です。

#### ⑦ 主管事業、防災への取り組みなど

- ・大阪府交渉は府内の障害者団体とともに取り組み、当会と大阪聴覚障害者福祉会からの要望への回答は7月10日、11日の2日間取り上げられました。ワークライフ支援事業の予算増と国への働きかけ、国への介護保険優先原則の廃止および加算見直しの働きかけと助成の要求などの要望を毎年出していますが、年々文書回答が多くなっています。
- ・全日本ろうあ連盟主催の「第33回全国ろうあ者相談員研修会・第24回全国職業安定所手話協力員等研修会兼ろうあ者労働問題フォーラム」が1月24日・25日に浪速区民センターで開かれ、大阪労働局職業安定部職業対策課の職員から、講演や助言者としての協力を得て、無事に開催でき

ました。

- ・第46回近畿ろうあ者体育大会は大阪府内7会場での分散大会となり、万博記念公園・二色の浜（野球）、能勢町海洋センター（卓球）、熊取町ひまわりドーム（バレー）、光明池・二色の浜（テニス）、東大阪市春日グラウンド（ゲートボール）、フタバボウル関大前店（ボウリング）、フットメッセ生野（フットサル）の各会場で、5月25日・26日に開催されました。
- ・第48回近畿ろうあ女性フォーラムが7月28日（日）に大阪府谷町福祉センターで行われ、5つの分科会に149名の参加がありました。大阪府谷町福祉センターで開催される最後の女性フォーラムとなりました。
- ・8月31日（土）、岸和田市立福祉総合センターにて第35回近畿ろうあヤングフェスティバルが開かれ、65名が参加しました。企画会社に依頼して謎解きゲームを実施、交流を深めました。
- ・第5回世界ろう者水泳選手権が8月26日～10月31日にブラジル・サンパウロで開催され、大阪からは金持義和選手が日本代表として出場、200m背泳ぎ金メダル、4×100m男子メドレーリレー・4×200m男子フリーリレー銀メダル、50m背泳ぎ・100m背泳ぎ・4×100m男子フリーリレー・4×100m混合メドレーリレー銅メダルの素晴らしい結果を残しました。
- ・第2回世界デフテニス選手権大会が10月12日～19日にトルコのアンタルヤで開催され、大阪からは喜多美結選手が日本代表として出場、女子シングルス金メダル、女子ダブルス銀メダルという素晴らしい成績を収めました。
- ・第19回冬季デフリンピック競技大会が12月12日～21日にイタリア・ヴァルテッリーナ、ヴァルキアヴェンナ地方で開催され、大阪からは小野田瑛次選手が日本代表として出場、スノーボード・スロープスタイル5位入賞、スノーボード・ビッグエア6位入賞と健闘しました。
- ・防災ネットワーク委員会は全体会を7月9日と1月31日の2回実施したほか、年3回の事務局会議を開催、情報提供施設の防災の手話動画の作成に協力しました。
- ・3月12日に当会副会長の廣田しづえ氏の第20回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞（2019年10月7日、全日本ろうあ連盟推薦）、大阪聴覚障害者福祉会専務理事の佐藤修氏の第53回社会貢献者表彰受賞（2019年11月25日、全国ろうあヘルパー協議会推薦）を記念した祝賀会を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により延期となりました。